

3町で取り組む、地域の魅力を体験する教育旅行 日高王国(浦河町、様似町、えりも町)



【アスパラガス畑で受入先農家と生徒】

【組織等の概要】

- 代表者: 会長 池田 拓 (浦河町長)
- 事務局: アシスタントディレクター 山元 恵美
- 主な活動内容: 教育旅行の誘致、コーディネーター等
- 連絡先TEL : (0146)22-2511
- URL : <http://www.hidaka-king.com/>

【取組の成果】

- 平成30年度まで、高校生延べ2,909人を受入
- 生徒は、農林漁業体験や食事の手伝いをする中で、学ぶ意欲や自立心が育成され、さらに生産現場への理解と食の大切さを学べる
- 受入側は、交流人口の増加により、地域知名度の向上が図られ、観光客の増加や地場産品の知名度が向上し、地域が活性化
- 都市部の生徒と農村部の住民に交流が生まれ、一過性ではなく継続的な「地域サポーター」的効果を創出し、参加生徒が道内の牧場で就農

◇【取組の経緯と概要】

- ◆ 日高振興局東部に位置する浦河町・様似町は、基幹産業(軽種馬生産・漁業)不振により地域経済が冷え込み、人口減少の歯止めが効かず、また、交通アクセスの不便さなどから交流人口も減少するなど地域の衰退が懸念された
- ◆ 平成21年、両町は首都圏や関西圏等の教育旅行地として北海道の人気が高いことに注目し、同地域の魅力的な地域資源・自然環境を最大限に生かした独自の体験プログラムを地域が一体となって提供することにより、第一次産業の新たな収入源を確保し、さらに地域の活性化に繋げる事を目的として、日高王国推進協議会を設立
- ◆ 平成22年に同様の課題を抱える、えりも町がオブザーバーとして参画。平成25年、同協議会の正式構成員に加わり現在の3町体制となった
- ◆ 平成23年度から、関西の高校を中心に修学旅行生の受入れを開始

【取り組む際に生じた課題と対応方法】

- 高齢化の進む第一次産業では、受入家庭のなり手が不足し、その確保が難航
 - ⇒ 戸別訪問を行い受入家庭を確保
 - ⇒ 「農林漁業体験」は生産者で、「宿泊」は一般家庭でというように受入側を分業化し、受入家庭の負担軽減を図る
- 思春期の様々な性格の生徒を受け入れる難しさへの対応
 - ⇒ 受入家庭同士の交流会・反省会を実施し、情報を共有してサービス向上を図るとともに、受入家庭のモチベーション向上を図る

【活用した支援施策】

- 地域再生チャレンジ交付金事業(北海道、H21~H23)

【今後の展望】

- 所得向上のため30~40人規模の団体の合宿先などの誘致を検討
- 参加生徒の“特別”な地域になり、ふるさと納税や卒業旅行などで再び訪れる文字通り第二のふるさとのような存在を目指す



【搾乳作業】



【日高昆布の干し作業】